

## 今月の御教え

神を拜む者は、拍手して神前に向こうてからは、たとえ槍先で突かれても後へ振り向くことはならぬぞ。物音や物声を聞くようでは、神に一心は届かぬ。

……金光教祖御理解 第九十七節……

解説 「一心になれ、一心にならねば御蔭は預けぬ」と、教祖金光大神様は仰っておられますが、

このお言葉は、その「一心になる」事を具体的に示された御理解であります。

「一心になる」ことは大変至難の事と思われるでしょう。しかし、私達も、興味のある事や趣味に夢中になっている時などは、人の話しかける声や物音が耳に入らなかつた経験が一度ならずあるのではないでしょうか。神様に向かつて祈るときも、そのような心持ちになって初めて思いが神様の耳に届くのであります。

又それと共に、「物音」や「物声」とは、俗世間の通念や価値のこととも思え、その言動に同調するのか、もしくは、金光様の御教えや結界取次のお教えを第一義に頂こうとするのかで、神様より頂ける御蔭は大きく異なってくるように思えます。

即ち、広前に掲げて在ります「神人あいよかけよの生活運動」の『願い』を頂く稽古に日々不断に勤しむことにより、神に届く一心が培えるのではないのでしょうか。